



先月の活動(9月)

日本語教室 9/6 9/20 9/27 (3回)  
9/5(金) まちづくりと生成AI講座(恩地)  
9/6(月) オリーブ日本語発表会  
9/22(月) 滋賀県地域日本語教室実態調査協力 (恩地)  
9/24(水) 草津市多文化共生推進プラン策定委員会(恩地)



今月の活動予定(10月)

日本語教室 10/4 10/18 10/25 (3回)  
10/5(日) KIFA日本語スピーチ大会(恩地・中溝)



参加人数(9月)

|      | 9/6 | 9/20 | 9/27 |
|------|-----|------|------|
| 学習者  | 30人 | 30人  | 24人  |
| スタッフ | 26人 | 21人  | 27人  |



会員の動き (9月)

〈入会〉 八田 真実  
島袋 由起美  
〈退会〉 豊田 一美  
〈休会〉 なし



ケンジさんの俳句



万博の終わりし後の冬支度



八田 真実さん  
養成所の紹介で来ました。  
ボランティア自体が初めてです。  
いろいろな人とコミュニケーション  
をとって、楽しんでやりたいです。



島袋 由紀美さん  
恩地さんご紹介できました。  
今年4月に夫の転勤で名古屋から参  
りました。どうぞよろしくお願いい  
たします。



2025年度第1回 日本語能力検定合格者  
コダマ アンジェリカ N4 (ブラジル)  
※すでに帰国しましたが、豊田さんが教えてい  
たラフマン・スガンダさんがインドネシアでN  
1に合格したという連絡がありました。かねて  
よりの希望通り会社で通訳として活躍してい  
るそうです。

編集後記

オリーブ以上に多国籍なKIFAのスピーチ  
大会を観覧して、今も日本にはいろんな国から留学生が来て  
いるんだとあらためて感じました。期待に応える国であり  
たいです。(フクイ)

明日じゃー!



10月19日 13時~20時

フィリピン人コミュニティが主催BNNも後援する  
スピーチ大会とのど自慢大会。  
歌うの大好きな学習者さんはいませんか?



# オリーブ通信

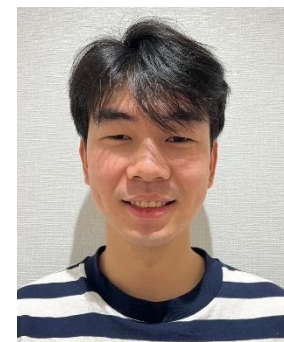
2025年 10月号  
2025・10・18発行  
第282号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

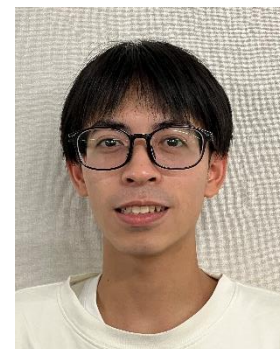
新しいなかまを紹介します



ハー・ドウオツク・ハン  
(ベトナム)



ファム・ホン・サン  
(ベトナム)



グエン・バン・ダイ  
(ベトナム)

中川先生のへんてこ日本語

冷麺始めました

毎年6月ごろになると、「冷麺始めました」「かき氷始めました」などという貼  
り紙が目に入る。ではなぜ「始めました」はあって、「終わりました」はないの  
か。6月に入って暑くなってくると、「冷麺食べたい」というワクワク感が高揚  
し、われわれの視点は始点に置かれる。9月の「終わりました」は、食べたい感動  
が自然消滅し、視点は置かれぬ。スマホの新機種、10月10日発売開始「ハッ  
ピーセット、9月12日発売」とあらば、開店前から長蛇の列ができる。これも始点  
にのみ視点が注がれ、商品在庫がなくなるとともに終点は自然消滅である。「レポ  
ートの締め切りは10月10日まで」と言われると、学生の視点は終点に置かれ、終点  
に照準を合わせてレポートを作成する。「大阪関西万博は10月13日まで」と言われ  
ると、開幕前に入場者で混雑するのは、終点に注意が注がれているためである。  
「4月13日開幕」と言われて、いそいそと出かける人と、「10月13日開幕」と聞  
いて、慌てて出かける人とは客層に違いがあるかもしれない。ビアガーデンは、  
9月末をもって終了します」と貼り紙されても、季節柄お客は少ないかもしれない  
が、「〇〇は残り3個となりました」などとアナウンスされると急いで買いに走  
る。人間心理をうまく活用していくと、ひよっとしてビジネスに成功するかもしれ  
ない。私も、「レポートは、10月10日受付開始、10月17日受付終了」などと発表  
すると、少しは早めに準備を始めてくれるだろうか。そろそろ「おせち料理」の注  
文受付が始まる。急がなくなちゃ。遅くなるとほしいものがなくなってしまう。

国際教育企画顧問 中川良雄

180



# KIFA 第4回 外国人による 日本語スピーチ大会



初級上級あわせて14人、10カ国からの参加で国際色豊かでした。内容も個性的で、日本での生活をそれぞれに楽しんでいるのが伝わりました。恩地審査員長の講評にもあったように「誰が入賞してもおかしくないレベルの高い」大会でした。

オリーブからは、6名の参加。レー・ヴータイン(ベトナム)さんが初級の部で草津市国際交流協会賞、中上級の部ではニン・ユ・ウェイ(ミャンマー)さんが草津ロータリークラブ賞を受賞しました。



スピーチの後は小学生による「英語落語」。オリーブのマーク君もいっしょに熱演



ウェイさん



恩地さん おつかれさまでした



タインさん

2025年10月5日(日)  
フェリエ南草津 5F



会場に集ったオリーブの仲間と記念撮影

偶然？ それとも？」 (その二)

## スタッフの寄稿文

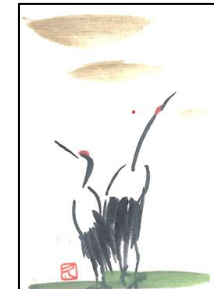
寺井 一二三

仲良くなった大角さんと親しく話すうちに、大角さんが辻君と従兄妹だと判明した。辻君とは小中高を通じての同級生だ。六十年以上昔のこと、同じく同級生だった敏ちゃんから、高校一年生の一学期の最終日に「北に帰る」と告げられた。突然のことに驚いて引き留めることも出来ず、文通しようとして約束した。

「最後の楽園」などと喧伝され、在日の人たちの帰国作業が推進されていたが、北朝鮮は楽園とは真逆の国だった。脱北者の手記や漏れ伝わってくる、かの国の様子は目も当てられない惨状ばかりだった。私はそれらの報に接する度に敏ちゃんの身を案じていた。

辻君は大学卒業後、家業を継いでいた。彼の作業場を訪れると敏ちゃんの机があった。愛おしそうに机を撫でる彼を見て敏ちゃんの身を心配していることを確信した。

「開かれた国になったら、何をおいても探しに行く」と言う彼の言葉は力強く、頼もしかった。「近くして遠い国に住む君はいづこぞ 二八(一六歳)の春の思い出は今も友らの胸の中」の歌を残して頼りにしていた辻君は還暦前に逝ってしまった。



大角さんの手描きのはがき絵

沖ノ島で偶然声をかけられた縁で大角さんと親しくなった。その大角さんは、私が信頼し頼りにしていた辻君と従兄妹だったと言う偶然。山ほどある本の中から片岡さんが私の拙文を聞いてくれた偶然。彼女と大角さんは時期が違うが同じ職場だったという偶然。

これらは全て単なる偶然が重なっただけなのだろうか。偶然だけではない何かがあるのだろうか？

